

平成 27 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、4 日にかけて発達した低気圧が北海道の東海上に停滞し、冬型の気圧配置が続きました。特に 1 日から 2 日にかけては、北海道を中心に暴風雪となり、羅臼では局地的に記録的な大雪となりました。その後 5 日と 8 日に低気圧が本州付近を通過して東日本を中心に雨や雪となりました。

中旬は、11 日から 12 日にかけて日本海を通過した低気圧が 15 日にかけて北日本の東海上で発達し、北・東日本を中心に冬型の気圧配置が強まりました。14 日から 15 日にかけて、北日本では北海道を中心に暴風雪となったほか、北陸以北の本州の山沿いでは大雪となったところがありました。その後 18 日にかけて、低気圧が本州南岸を通過し、太平洋側でも雨や雪が降ったところがありました。19 日から 20 日にかけては冬型の気圧配置となり、日本海側では北陸を中心に雪や雨となりました。

下旬は、22 日から 23 日にかけて、日本海北部を低気圧が発達しながら通過したため、南から暖気が流れ込み全国的に気温がかなり高くなり、九州北部、中国、四国、北陸の各地方では春一番となる強風が吹きました。また、本州南岸を前線が通過したため、東・西日本の太平洋側で雨となりました。24 日から 25 日にかけては、移動性高気圧が通過し、雲が多いものの晴れたところが多くなりました。26 日から 27 日にかけては、低気圧が日本付近を発達しながら通過したため、北海道では雪、それ以外の地域では全国的に雨となりました。その後、冬型の気圧配置となり、北日本では暴風雪となりました。

月平均気温は、北日本で高くなり、釧路と根室（北海道）では、2 月の月平均気温の高い方からの 1 位を更新しました。月降水量は、西日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美で少なくなりました。名瀬（鹿児島県）と南大東島（沖縄県）では、2 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。降雪量は、全国的に少なく、北日本日本海側ではかなり少なくなりました。

【2 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 2 ポイント高い 85% で、明後日予報は例年値より 1 ポイント高い 81% でした。各地方の適中率では、明日予報は、北海道、九州南部、沖縄の各地方で 6 ポイント高くなりました。明後日予報の適中率は、東海地方と沖縄地方で 5～6 ポイント高くなった一方、中国地方で 5 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなり、特に関東甲信地方と中国地方で 0.5～0.6 小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.4 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4 月の天気予報の利用にあたって】

4 月は移動性高気圧に覆われた穏やかな日が多くなりますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して、雨や風が強まって荒れた天気になることもあります。また、多雪地域では低気圧通過に伴って雪どけが一層進みますので注意が必要です。災害をもたらすような荒天が予想される場合は、気象情報や警報・注意報を発表しますので、最新の情報を参照してください。